福知山モデル

地域貢献という大学の目的が教育と研究を方向づけることによって、
地域社会と大学とが緊密に協働し、共に発展する仕組みです。

第2期中期目標(2022~2027年)で「福知山モデル」の実現をめざしており、多様な取り組みを通じて地域と大学が共に成長・発展し、地域経営学と情報学の専門的知見や技術をもって、地域の課題解決や新たな価値の創造に向けて取り組みます。

地域連携

北近畿地域における教育研究活動の連携拠点として、地域の多様なアクターと協働します。多世代の人材育成や交流事業、研究活動などを通じて地域の発展に寄与し、地域と大学がともに成長する関係を築きます。

北近畿地域連携機構

教育研究活動の拠点として、大学や企業、行政機関、その他の団体をつなぐ役割を担います。2022年には産学公プラットフォーム「北近畿コラボスペース」を設置し、北近畿地域の発展に向けて取り組みます。

地域の人材育成プログラム

小・中学生からシニアまで、起業や学び直し、情報人材育成など、さまざまな目的と幅広い世代を対象に、各種講座の提供を通じて地域に貢献します。

STL助成金

学生が主体的に地域で活動し、成果を見込むプロジェクトに対し、大学が全面的に支援を行っています。

研究

地域が抱える課題を起点として、多様な学術的専門性を活かし、理論研究にとどまらず研究成果の社会実装をめざした「地域協働型研究」に取り組み、地域の新たな価値創出につなげます。

企業との共同研究

北近畿地域連携機構を通じて、企業や自治体の課題解決に取り組みます。

地域防災研究センター/国際センター/数理・データサイエンスセンター

大学が持つ専門的な知見を地域課題の解決に活かすため、各分野の専門機関を併設しています。

大学院地域情報学研究科

時代とともに変化し多様化する社会の課題に対応するため、専門分野の学びに加え、卒業後も必要となる知識やスキルを自ら見つけ学び続ける能力を育成します。

教育

地域の人々や団体と協力しながら、地域の課題を発見し、その解決に向けて実践的に取り組む「地域協働型教育」を提供し、地域で活躍できる人材を育成します。

情報学を基盤とした地域協働型教育

地域課題を解決に導く力を高めるため、地域データを科学的に取り扱い、情報学の手法で地域を理解・分析し、解決策を提示するスキルを身につけます。

汎用的学修能力の育成:基盤教育院

時代とともに変化し多様化する社会の課題に対応するため、専門分野の学びに加え、卒業後も必要となる知識やスキルを自ら見つけ学び続ける能力を育成します。2026年度より、地域経営学部・情報学部に共通する教育基盤となる科目を展開する「基盤教育院」を設置しました。さまざまな分野を専門とする教員によって、全学的視点で汎用的学修能力の育成を行います。

地域の未来を支える教員の育成(情報学部)

地域とともに学び、地域の未来を支える“先生”を、福知山から育てたい。そんな思いのもと、情報学を基盤とした論理的思考力やデータ活用力、何より「学び続ける力」を備えた次世代の教育者の育成に取り組みます。

Topic!

2026年から新カリキュラムへ移行

- 大学全体・両学部の3ポリシー※を策定
- 新カリキュラムの実施
- 基盤教育院の設置
- 情報学部定員増(入学定員120人)
- 地域経営学部改編
  (地域経営学科の1学科制に移行)

※3ポリシー: ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)
カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)
アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)